

令和6年2月5日

言葉だよりNo.10 (第420号)

「分校歌」

分校長 中井

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、日常生活がコロナ禍以前に近い状態に戻ってきました。コロナ禍では、学校生活において様々な制限がありました。その中でも、特に「歌唱」においては飛沫感染を防ぐため、かなり慎重な対応が求められました。学校行事では「校歌斉唱。声には出さず、心の中で歌いましょう。」という文言が繰り返し用いられ、私自身も歌を歌わない音楽の授業実践に大変苦労しました。もちろん、声に出さなくても、自分自身の中で歌詞の素晴らしさを味わうことはできますが、声に出し、人に伝えることによってさらに歌詞は生き、一人では味わうことができない感動が生まれるということに、あらためて気づかされました。

さて、三瓶分校には素晴らしい分校歌があります。私は以前、音楽教員が不在であった三瓶高校で授業をするため、当時の勤務校から週2日間通っていたことがありますが、その時からこの学校の校歌が大好きでした。明るく元気の良いメロディーに、親しみやすい言葉が散りばめられた美しい歌詞。まさに、今この学校で毎日様々なことを頑張っている生徒の皆さんにぴったりな曲だと思っています。ふと過去の周年記念誌を調べてみたところ、昭和55年11月に行われた創立60周年記念式典において、作詞者である坂村真民氏をお招きして「二度とない人生だから」という演題で講演会が催されており、その中で校歌と生徒歌について語られた内容の記載がありましたので、一部を皆さんに紹介したいと思います。なお、文中に出てくる生徒歌というのは、皆さん歌ったことがないかもしれませんが、この曲も坂村真民氏の作詞によるものです。また、作曲者の中田喜直（なかだよしなお）氏は、皆さんもよく知っていると思いますが「ちいさい秋みつけた」や「めだかの学校」「夏の思い出」などの名曲を作曲した方です。

「さき程私は校歌を初めて聞きました。中田喜直さんが心をこめて、私の詩に曲をつけて下さいました。(中略)これから学校を出られて、友達と一緒に乾杯でもなさる時には、どうか校歌を歌い、生徒歌を歌って、この三瓶の将来のために、またこの世に生まれて来た自分のためにより人生を送っていただきたいと思います。」

いかがですか。私はこの文章を見た瞬間、胸が熱くなりました。皆さんも、ぜひ作詞者の思いを受けて今一度歌詞の意味を考え、分校歌を味わってみてください。そしてこの学校でこれまで学んできた多くの方々や地域の方々の思いをこの素晴らしい分校歌に込め、誇りと感謝の気持ちをもってこれからも歌い継いでほしいと思います。